徳島新聞

徳大病院 難病の手術成功

比の神経性患者 症状80%改善

手術で症状が改善し、笑顔を見せるモンセラテさん（中央）＝徳島大学病院

神経性の難病・ルーパッグ病患者への国内2例目の手術を行った徳島大学病院は3日、会見を開き、手術は成功したと発表した。患者のフィリピン人男性ジョエル・モンセラテさん(49)の症状は大幅に改善し、術後半年間はさらに改善する可能性もあるという。5日に退院し、フィリピンの病院で治療を続ける。

手術は2月15日に実施。体の動きを制御する脳内の淡蒼球と呼ばれる部分に電極を、前胸部にペースメーカーを埋め込み、電気刺激によって神経の働きを改善する難度の高い方法で行われた。

執刀医の永廣信治教授らによると、手術前はじっと立つことも座ることもできず、食事や睡眠もままならなかったが、現在は上半身が少し左に傾く程度で、階段の上り下りや長時間座ることもできるようになった。症状改善率は80%という。

会見にはモンセラテさんも同席。埋め込んだ電極に違和感はなく、「帰国後は船舶工の仕事に復帰し、仲間と一緒に趣味のバスケットボールや卓球を楽しみたい」と語った。

手術や入院にかかった費用は約500万円。研究や国際貢献の一環のため徳大病院が負担する。

今後もルーパッグ病手術の依頼があれば前向きに検討するとしている。（森麻実）